

# 市立病院で行われている 治療の実際と副作用ケア

2024年11月28日（木） 18：45～ 江別市立病院 講義室  
江別市立病院 1階外来  
がん化学療法看護認定看護師 三浦佐夜

## 本日の内容

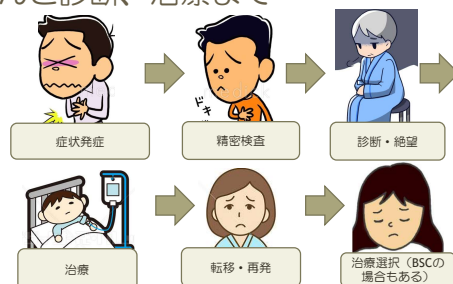
- 江別市立病院 日帰り治療室とは
- タキサン系抗がん剤時の冷却法
- 免疫チェックポイント阻害薬副作用へのケア
- 患者さんからのよくある質問
- 院外薬局との連携と課題

## 江別市立病院

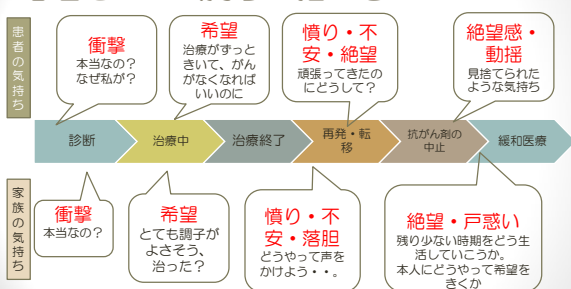
- ・診療科 15科＋α
- ・病床数 337床
- ・外来化学療法（注射）件数 平均35件/月  
（外来腫瘍化学療法診療料1 800点を算定）
- ・外来化学療法（内服） 外科・泌尿器科・内科
- ・ホルモン療法（内服・注射） 乳がん・前立腺がん



## がんと診断、治療まで・・・



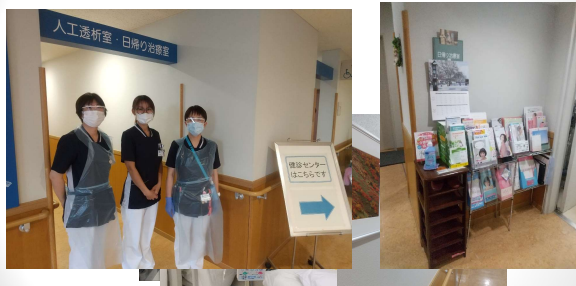
## 患者さんの気持ちの揺らぎ



## 江別市立病院で行われている治療

	殺菌剤性抗がん剤	分子標的治療薬	ICI	内服	ホルモン治療（注射・内服）
外科	FOLFOX/FOLFIRI CAPOX EC TX/DTX	BV Pmab Bmab	オブジーボ®	ページニオ® イブランス®  カベシタビン® ロンサーブ® スチバーガ®	レトロゾール® タモキシフェン®  フェネロデックス® リュープリン®
泌尿器科	GC DTX / ジェブタナ®	(パドセブ®)	キイトルーダ®  バベンチオ®		ゴナックス® ゾラデックス®  内服は各種
産婦人科	DC	BV			
内科 腎内科		レミケード® リツキサン®			

## 江別市立病院 日帰り治療室



## 外来治療日の患者さんの流れ

来院：8時30分頃

採血：ポートか末梢血管より日帰り治療室にて。問診聴取・外来との連携

診察：採血結果がでたら各診療科で診察（だいたい10時ごろ）

化学療法開始（10時半ごろ～）か、治療延期で帰宅、院外薬局でお薬受け取る

## 連携充実加算の実際



～患者様の声～

- ・ 専門家の話が聞けるので安心
- ・ 自分のことを気にかけてくれている人がいるという安心感

## タキサン系抗がん剤時の冷却法



## 治療中



## 抗がん剤その他の副作用

副作用症状	抗がん剤	対処方法・注意すること
末梢神経障害	オキサリプラチン タキサン系	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 冷感刺激を避ける（スリッパや手袋の着用）</li> <li>・ 階段から落ちそうになったり、包丁でけがをしったり火傷に注意</li> </ul>
脱毛	イリノテカン タキサン系 シクロフォスファミド	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 抗がん剤投与前に、帽子・ウィックなどの準備を促す。</li> <li>・ カラーを避ける。頭皮のビリビリ感に対して鎮痛剤の使用</li> </ul>
口内炎	全ての抗がん剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 口の中の乾燥をさける（いつでも飲めるようにコップや水筒に水分をおいておく）</li> <li>・ 痛みがひどいときにはキシロカイン入りのうがい薬を処方</li> </ul>

後あと何年も残るので、我慢するのはよくないことお伝えする

副作用症状	抗がん剤	対処方法・注意事項
爪の障害 皮膚の障害	プラチナ系 タキサン系 Pmab	<ul style="list-style-type: none"> <li>爪にも保湿剤を使用する、爪母細胞を刺激するようにマッサージしながら塗布</li> <li>テーピングや爪の保護テープの使用</li> <li>保湿、紫外線避けるなど、生活スタイルにあわせて指導</li> </ul>
<p>※ Pmab・スチバーガ®の皮膚障害に対しては、皮膚科に相談しながら対応する場合があります</p>		
味覚障害	全ての抗がん剤	<ul style="list-style-type: none"> <li>口腔内の乾燥を予防</li> <li>食事前にレモン水などで唾液の分泌を促進</li> <li>味付けの工夫（だしを濃くする）</li> <li>金属製のスプーンなどをさける</li> <li>香辛料は金属の味に感じることもあるので避ける</li> </ul>

## irAEへのケア

### ◆irAE:免疫関連有害事象

- ◇全身様々な症状がおこる
- ◇金額の問題 医師はあまり触れないので、看護師が詳しく説明  
→限度額認定されても、前年度の収入が高ければ、高額になる場合もあり。分割での支払い方法など、相談に乗ってくれる病院もある
- ◇患者さんの「ちょっと変だな」という訴えを大切に

例：「なんとなく目がかすむ」「口が乾く」  
「飲み込みずらさがある」「鼻の奥が詰まった感じがする」

## 患者さんに症状を確認～尋ね方の工夫

息苦しいですか？  
→階段を休みなく登れますか？

保湿していますか？  
→クリームやローションは一日のうちいつ塗っていますか？

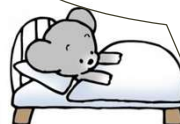


しびれていますか？  
→日常生活の中でボタンをしめたり、細かい作業でお困りのことはないですか？

自宅ではどんなことをして過ごしていますか？  
→自宅では大半をベッドやソファで横になっていることが多いですか？

## 患者さんからのよくある質問

- ・この抗がん剤はいつまでやるの？
- ・抗がん剤が効かなくなったら、どうなるの？
- ・最後どんなふうになるの？寝たきりになるの？
- ・保肝剤はもう塗らなくていいんでしょう？



## 院外薬局との連携 今後の課題

- ◇医師にも「薬剤師の専門家は薬剤師」「看護の専門家は看護師」という認識をもってもらう
- ◇できるだけ、かかりつけの薬局を作っていただくように説明  
(患者さんによっては病院ごとに薬局変えている)
- ◇マイ薬剤師さんを持ってもらうことのメリットを意識してもらう

## 多職種で患者さんを支える

- ◇同じことを何度も言われることで、実感しセルフケアにつながる
- ◇その患者さんが、これまでどのような治療を経験しどのような人生を歩んできたのか、その方の歴史にもふれる
- ◇「患者」ではなく、ひとりの「生活者」として、様々な役割をもっていることを理解する
- ◇経済的な面にも目を向け、必要とする社会資源が受けられているのか、援助すべきことはないか考えて接する
- ◇お薬手帳の活用で、患者さんが受けている治療の全体が見えるような工夫

ご清聴、ありがとう  
ございました。

今後とも、どうぞよろしく  
お願いいたします

